

その他復旧事業

I：鳥居再建工事のご報告

熊本県産材や阿蘇地域材(演習林から寄贈を受けた樹齢119年の杉5本など)を使用しました。事前の用材調達を経て、令和2年10月に着工、再建工事を開始し、12月に完成しました。

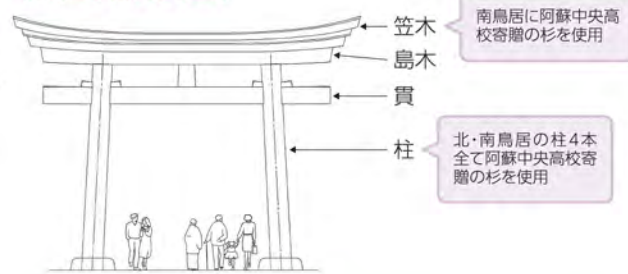
II：総事業費

工事費:38百万円
(充当資金内訳)
・一般寄附金・自己負担金
38百万円

III：施工業者

【設計・監理】
株式会社 日本建築工芸設計事務所
【工事施工】
清水建設株式会社 九州支店
【用材調達】
阿蘇森林組合

〈鳥居完成姿図〉



再建前の鳥居の様子



(平成30年12月)
旧鳥居は熊本地震では倒れませんが、築50年以上の歳月による経年劣化(柱の根腐れ)のため、安全性を考慮して再建することになりました。

柱(乾燥の様子)



(令和元年12月)
南・北鳥居の柱全てに阿蘇中央高校寄贈の杉を使用しました。虫が入らないよう、皮を剥いて乾燥させます。

柱(製材の様子)



(令和2年1月)
柱を加工するために、最初は八角に製材します。その後、十六角、三十二角へと、次第に丸に仕上げていきます。

笠木



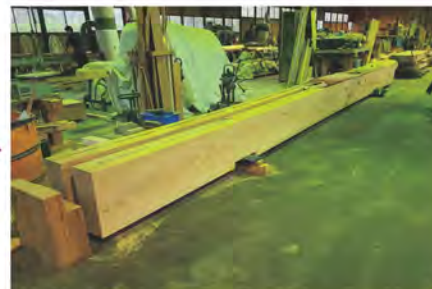
(令和2年9月)
鳥居の最上部分がささる部分です。南鳥居には阿蘇中央高校寄贈の杉を使用しました。

島木



(令和2年9月)
笠木の下にある部材です。阿蘇神社の鳥居は明神鳥居という様式です。

貫



(令和2年9月)
左右の柱を貫き、繋いでいる横材です。

建て方の様子①



(令和2年11月)
阿蘇中央高校グリーン環境科の生徒70名に見守られ、北鳥居の建て方が行われました。

建て方の様子②



(令和2年11月)
柱を立て、貫を通し、島木と笠木を乗せて鳥居の形になります。

鳥居再建完了



(令和2年12月)
約2年ぶりに阿蘇神社に鳥居が戻ってきました。新しい鳥居は、バランスを考慮した上でやや高さを抑え、各部材を大きくしています。さらに基礎を堅固にして、安全性を向上させています。

阿蘇神社災害復旧事業のご報告

復旧現況図

- 国県市補助事業対象
- 指定寄附金事業対象
- その他復旧再建事業
- 重要文化財

拝殿・翼廊 再建中
昭和23年(1948)建立
再建工事 R1.8~R3.6

※震災前の拝殿写真

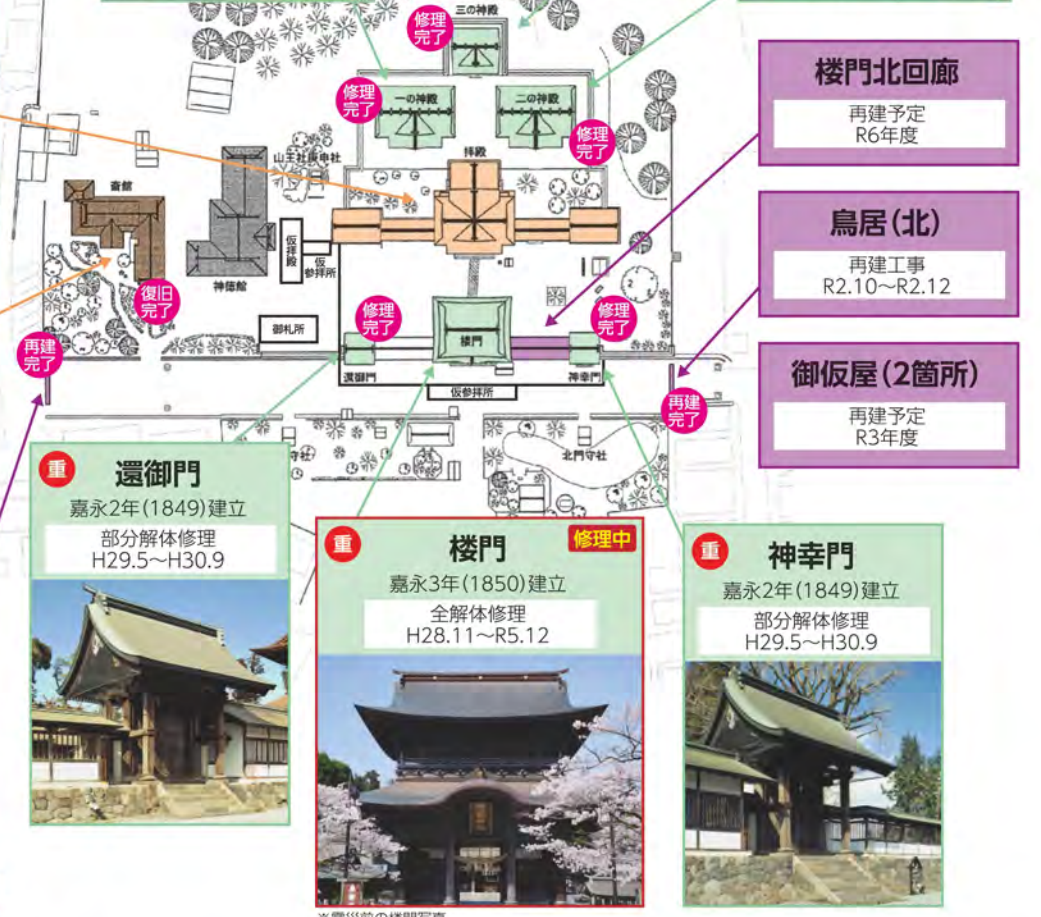
齋館
昭和3年(1928)建立
復旧工事 H30.4~H30.11

鳥居(南)
再建工事 R2.10~R2.12

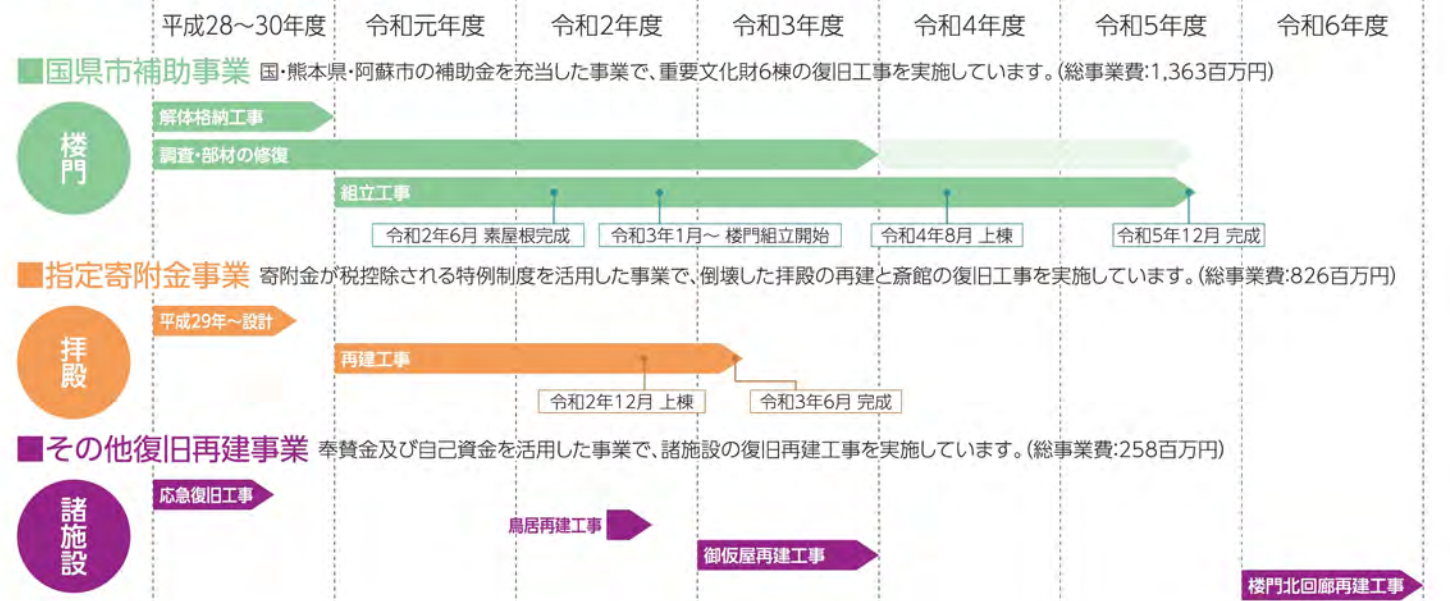
一の神殿
天保11年(1840)建立
部分解体修理 H30.7~H31.3

三の神殿
天保14年(1843)建立
部分解体修理 H28.12~H30.9

二の神殿
天保13年(1842)建立
部分解体修理 H29.5~H31.3



今後の日程



指定寄附金事業

I：工事進捗のご報告

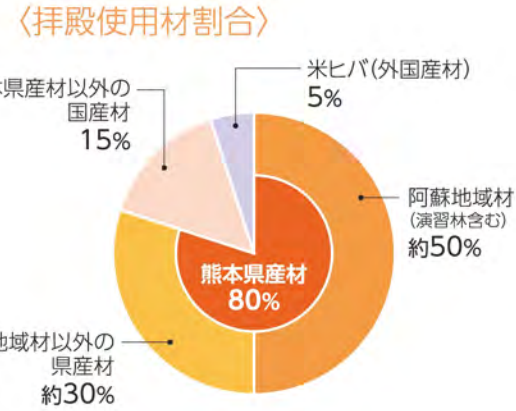
令和元年8月より再建工事を行っている拝殿は、用材の約8割以上を熊本県産材や阿蘇地域材（地元の阿蘇中央高校の演習林から寄贈を受けた樹齢91年のヒノキ50本など）を使用します。
 令和2年11月末時点での工事進捗率は約64%で概ね計画通りとなっており、令和3年6月完成予定です。
 なお、斎館の復旧工事は平成30年4月に着工、同年11月に完了しています。

II：総事業費 III：施工業者

【斎館】124百万円
 【拝殿】702百万円
 【総額】826百万円
 (充当資金内訳)

- 指定寄附金 400百万円
- 一般寄附金・自己負担金 426百万円

【設計・監理】
 〈斎館〉株式会社 日本建築工藝設計事務所
 〈拝殿〉 //
 【工事施工】
 〈斎館〉株式会社 小山社寺工業所
 〈拝殿〉清水建設株式会社 九州支店
 【用材調達】
 〈拝殿〉阿蘇森林組合



斎館

震災時



震災により、柱が傾き、壁の一部は剥がれ落ち、屋根瓦がはずれのため、ブルーシートで覆い、柱を井桁で補強しています。築90年を経過していたため、今後の安全性も考慮しながら、元の部材を活かす文化財的な視点で修復工事を行うことになりました。

工事の様子



傾いた柱を戻すため、まずは瓦・壁をすべて取り外し、その後に耐震補強工事を行いました。工事過程では、倒壊防止のため一時的に補強材で支えながら工事を行う必要がありました。

復旧完了



建物の歪みは補正され、剥がれた壁も元のとおり漆喰塗で仕上げました。また、建物に負担をかけないよう、屋根は瓦葺から当初の銅板葺に変更し、昭和3年当時の姿を取り戻しました。

拝殿(着工前の様子)

震災時



拝殿は平成28年4月14日の前震に耐えましたが、16日の本震には耐えられず倒壊しました。文化財の指定を受けていなかったため、半年後、やむなく解体撤去されました。

解体後の様子



令和元年5月、解体が完了した拝殿は再建に向けて工事が始まりました。

再建工事に着手(用材の調達開始)



平成31年2月、県立阿蘇中央高校の演習林において、関係者参列の下、安全祈願祭が執行されました。長い年月にわたり卒業生によって大切に育てられてきた檜材が伐採され、約1年間の乾燥後、拝殿材として使用されました。

拝殿(着工後の様子)

木材倉庫の様子



(令和元年8月)
 使用した木材総数量は約360m³です。

木材検査(写真は阿蘇中央高校演習林)



(令和元年8月)
 1本1本目視で割れ・腐れ・白太の有無を検査しました。

合格木材



(令和元年10月)
 検査に合格した木材にはハンコが押されます。

現寸検査の様子



(令和元年10月)
 工事施工業者が実物大の屋根図を描き、設計事務所が軒先の反りや形状の手直しを行いました。

基礎工事



(令和2年5月)
 柱の建つ位置にシームレス鋼管を設置し、耐震補強を行いました。

建て方の様子



(令和2年9月)
 屋根を支える隅木・大梁・母屋・束等の小屋が組み上がりました。

上棟祭の様子①



(令和2年12月)
 関係者参列の下、再建中の拝殿内で上棟祭が執行されました。棟に取り付けた紅白の紐を参列者が引く「曳綱の儀」や、大工が屋根に上がって木づちを振り下ろす「槌打の儀」などを行い、社殿建築を通して関係各位及び地域の末永い繁栄を祈願しました。

上棟祭の様子②



上棟祭の様子③

